

『Lines of Sight ～それぞれのアジアへの視線～』

●OPFWトップページ ● NPIトップページ

Title: 「アジアの空に水母が揺れる」

*Lines of sight*

～それぞれのアジアへの視線～



羽立 孝
1981年鹿児島生まれ。2005年から水問題を撮り始め、この海外FWでも水の環境問題を続けて撮り進めて行く。

○ 最近のエンター

- [屋下がり@ペタリンジャヤ](#) (2006.05.26)
- [1941](#) (2006.05.16)
- [the spitfire grill](#) (2006.05.16)
- [コタバルらくらく](#) (2006.05.15)

○ アーカイブ

- [February 2007](#)
- [January 2007](#)
- [December 2006](#)
- [November 2006](#)
- [October 2006](#)
- [September 2006](#)
- [August 2006](#)
- [July 2006](#)
- [June 2006](#)
- [May 2006](#)
- [April 2006](#)
- [March 2006](#)

○ 投稿カレンダー

○ カテゴリー一覧

- [Bangkok](#)
- [Hanoi](#)
- [Ho-Chi-Minh](#)
- [INDIA](#)
- [Malaysia](#)
- [SiemReap](#)
- [Taiwan](#)
- [石垣島](#)

○ ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

RSS 2.0

アーカイブ > May 2006 アーカイブ

06.05.26

| 屋下がり@ペタリンジャヤ

[Tweet](#)[Check](#)

明日は最後のスクーリングの日。

今日は明日の仕上げに向けてプリントした写真と睨めっこしたり、暗室作業ラストスパートをする人達もいる。

それでも一時期の慌ただしさもなく、プリントも動く事が稀になり、暗室は6日間の喧騒から解放されつつある。

作業はピリオドを打てども、皆の疲れはピーク。例えば.....



このようにお菓子の袋に手を入れたまま眠ってしまった(笑)

それでも皆、少ない期日で二ヶ月分の大量のフィルムを現像し、それをまとめ明日の提出にこぎ着けることができた。私に至ってはカメラが4×5の大判カメラなので機動性が全くない。そのため気軽に使えるOLYMPUSさんから提供して頂いたμ720SW(すごく軽くて丈夫で使いやすい)で資料用やその他諸々に使わせて頂きました。そのおかげで今現在の写真の整理にとてもお世話になっています。提供して頂いたOLYMPUSさん、及び担当の松崎さん、本当にありがとうございます。

そしてこのような作業がマレーシアという日本から遠く離れた店頭からフィルムカメラが消えつつある国でできることに毎日感謝の気持ちを覚える次第です。スクーリング先に激励に来て頂いた理事長先生、そしてスクーリングの前まで直接ご尽力いただいた長坂先生及び関係者の方々に厚くお礼を言いたいです。ありがとうございました。

このような形でしか今はおが出来ませんが、9月に日本に帰る折にはちゃんと直接お礼を言いたいと思う次第です。

カテゴリー:

post by 羽立 孝 | 日時: 2006.05.26 | [パーマリンク](#) | [コメント \(3\)](#)

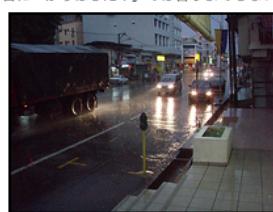
アーカイブ > May 2006 アーカイブ

06.05.16

| 1941

[Tweet](#)[Check](#)

コタバルは今日も雨。五月も半ばに入り雨期に差し掛かっているのだろうか。二日連続夕方から雨が降り注ぐ。全てを洗い流すかの様な強い雨。私の被写体もことごとく流れていって次の日に「がっばした！」のは言うまでもない。



静かな街だ、それがこの街の最初の印象だった。車は通るがそんなに多いわけではない。

バンコクの様な持ち前の湿気に排気ガスが交じったある種、館えた様な臭いは微塵もない。

発展しているわけでもなく錆びれているわけでもなく、大きな建物(ホテルだろうか)を建設しているものの急いでいる気配は全く感じられない。湧く事が出来るのだが、敢えてそれを拒んでいるかの様なゆとりを感じられるケランタン州の州都であった。



日本へおけよ。海外に舞台を。そして、日本へおけよ。



写真左下の鷹の爪が後に悲劇を生む。

夜ご飯は“Curry House”というカレー屋さんで食事をすることにした。
マレーシアにはインド人が多いというのは聞いていたが、ここもそのインド人が経営するカレー屋さんだった。

店の中には右手で食べる人もいれば普通に(主觀的だが)スプーンを使って食べる人もいた。
客層はまちまち、中華系もいれば中央アジア、東南アジア、そのような人達が店主の作るカレーに舌鼓を打っていた。

店主は多少日本語を知っていた「ゴハン」、「トリ」のような彼の生活と関係のある言葉を聞かせてくれた。
その後、彼は自分のお父さんの話を壁にかけてある似顔絵を指差しながら教えてくれた。
「私の父は1941年にイギリス軍としてコタバルに来たんだ、日本軍と戦ったんだよ。」
特に気に止めなかった「なぜインド人がマレーシアにたくさんいるのか?」という事のその答えが一瞬で出た、そう思った。考え込む私に彼は
「私は日本が大好きだよ。」
そう笑顔を返してくれた。

日本にとってはコタバルは日本軍がマレーシアに初上陸した土地であり。そこから侵略が始まった。そんな解釈をしていた自分にはすぐに呑み込める会話ではなかった。しかし、後々調べると日本軍はイギリス軍を追い払い自分たちを解放してくれた者達であり、さらにはマレーの若者達に教育を施していたという。日本が1945年に戦争に負けたおり、イギリス軍に擱する再侵略が始まつた。その折に抵抗する気概を与えてくれたのが1941年にマレーシアを解放した日本軍であり、そのイギリスの抵抗勢力として活躍したのが教育を受けた青年達だったようだ。
現に、1991年には「日本軍コタバル上陸50周年記念」として記念に戦争博物館を設立している。

歴史の面白さというは原因があって結果があり、個々の事象が連鎖している点にあるのではないかと思うのだが、こういった解釈の違いも面白いものだと思った。ただ自分がこう感じたのは日本にとってその解釈がプラスに働いているからに他ならない。逆の場合、例えば中国で蔑んだ目で見られた場合、私に何が出来るのだろう。



殊に雄弁なカレーであった事か。。。

カテゴリ : [Malaysia](#)

post by 羽立 孝 | 日時: 2006.05.16 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#)

[アジアの空に水母が舞れる](#) > May 2006 アーカイブ

the spitfire grill

[Tweet](#)

[Check](#)



カテゴリ : [Malaysia](#)

post by 羽立 孝 | 日時: 2006.05.16 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#)

[アジアの空に水母が舞れる](#) > May 2006 アーカイブ

06.05.15

コタバルらくらく

[Tweet](#)

[Check](#)

12日にマレーシアに入国し、バタワースに一泊。
次の日の朝10時にバタワース駅の真横にあるバステーションからコタバルへ移動。



途中、警察に呼び止められて(おれじゃないよ、バスがだよ)30分程立ち往生。
結局コタバルに着いたのは18時過ぎ。
マレーシアに来て最初に思ったことは日が長いということ。18時を過ぎてもまだ明るかった。
コタバルのバステーションに着いてホテルに向かう。
タクシーを拾ってホテルまで行くことを決めたのだが、このタクシー運転手のファウジー(愛称ファウジーさん)がよく掴めない人だった。
まずは道をよく知らない、色んな一人で道を開いていたな。
何故か宿泊ホテルで一緒にウェルカムドリンクのオレンジジュースと一緒にごちそうになっていた。その自然さに思わず吹き出しちゃったものだ。
そして何故かホテルのドアマンよりもよく動く。ドアマンがポーッと見てる中、いそいそ荷物達を運んでくれましたね。

乾杯☆



ホテルはと言うと、中級クラスのホテルなのですがここがまたホットスポットでありまして、
タイで購入した無線LANを試さんと(既に数回使ってますが)ホテルマンに言ってIDを取得。
値段は28リングギット(日本円で900円弱?)。どのくらい使えるかホテルマンの人はあまりパソコンに詳しくなかったためわからなかった。物は試しと思いセッティング。
説明書等を見てみると、なんと30日間使い放題らしい。900円で使い放題。。。
素晴らしいIT社会。

[続きを読む「コタバルらくらく」](#)

カテゴリ : [Malaysia](#)

post by 羽立 孝 | 日時: 2006.05.15 | [パーマリンク](#) | [コメント \(4\)](#)

[アジアの空に水母が舞れる](#) > May 2006 アーカイブ

06.05.10

Pay Forward

[Tweet](#)

[Check](#)

たまたま先週の土曜日(5/6)にバックパッカーの聖地とも言われるカオサン通り周辺に行った。
カオサン周辺は特になんてこともなくいい具合に期待を裏切ってくれることもなく、外国人や外国人目当ての場所でしかなかった。

しばらく歩いて水辺を探しながら撮影をしていたらワットプラケオという寺院のちょっと北に位置する公園もしくは広場の様なところで仏教徒のお祭り(?)の様な催しがあって。そこでは人々が祭壇の周りを歩き、花を持ち、祭壇の四隅にあるロウソクで線香に灯をともし、祭壇に向かって礼拝していた。その様子を見据えるように大勢の僧侶達が教典であろうものを読経していた。行き当たりばったりだったのでこれが何にあたるのか、どういった意味があるのか想像の糸を抜けることはない。私たちの旅は大体でいうならば目的があるのだが、もちろんローカルな内容まで把握しているわけではない。せいぜいガイド本に載っている内容、ネットに上げられた内容ぐらいのものだろう。そんな目的に準ずる計画から生まれる必然と旅にまつわる偶然とが交わるこれらの時間がきっととても価値のあるものになってくるのだろうな。



それは先日行ったダムヌンでの出来事にも通じるだろう。バンコクからバスで2時間、南に80kmの場所に位置するその場所には水上マーケットがある。その場所は特に目立った地図もなく、水上マーケットまでの道もあやふやな範囲でしかわからない。

そうした中、水上マーケットがあるであろう方向に向かっている道すがら英語もうまく通じないおじさんに話しかけられた。結局よくわからなかつたのでその時は断ることにした。その数分後またそのおじさんに出逢った。いくつかのあやふやな会話の後、なんとなく"Floating Market"(水上マーケット)と言っているように聞こえたのでその人が運転するバイクを改造した荷台に乗せてもらうことになった。着いた場所は水上マーケットらしき場所。「らしき」の理由はひどく閑散としていたからだ。水上マーケットというのは午前の早い時間が一番賑やかであるらしいのだが、行った時間は夕方に近い午後、しかも日曜日であったためなのかもしれない。そこで下日を終えた水上マーケットへ。

その道すがら、"INFORMATION"の文字が見えたのでその建物に近付くと"May I Help You?"と確かに聞こえたので多少安心しながらその40代前後の男と会話した。その男にはいろいろ教えてもらった。水上マーケットは朝来ないとダメだとか、ホテルから水上マーケットに行くには黄色いバス(トラック)の荷台を改造した10人ぐらい乗ることが出来そうな簡易バス、屋根付きに乗りれば5バーツ(約15円)で水上マーケットに行けるぞ、バンコクに帰るには78番のバスに乗るんだなど...、日本車に乗り怪しげなおじさんだったが別れてみるととても親切なおじさんだった。その他にもトゥクトゥクに乗ろうとしたら何百バーツもとられるよと静止してくれたおばさん、マーケットで朝の7時に待機していたらマーケットが賑やかになるのは8時くらいだよ(タイ語だったがジェスチャーでそんな感じ)と教えてくれたおじさん。"Pay Forward"の気持ちを持って同じように人に親切にできたらいいなと思う。

そういうえばベトナムのホーチミンで白人の人に川の道のりを教えてあげたなと思い返す。おれ地元の人じゃないんだけどな。その誤解は一生解けることはないだろう。



[続きを読む "Pay Forward" »](#)

カテゴリ : [Bangkok](#)

post by 羽立 孝 | 日時: 2006.05.10 | [パーマリンク](#) | [コメント \(1\)](#)

[アジアの空に水母が飛ぶ](#) > May 2006 アーカイブ

06.05.03

BANGKOKにて

[Tweet](#)

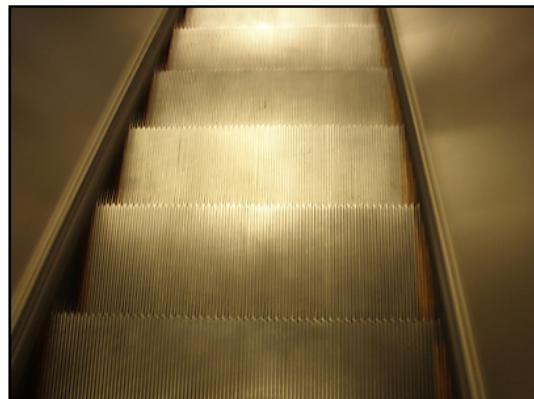
[Check](#)

タイに来て一週間。

カンボジアの国境の街ボイエトを抜け、20人全員が乗れるように3台の身にバスをチャーターし、そのままバンコク入りをする。

人酔い、耳鳴り、悪臭、熱気、懐かしいな

数日前までいたのがシェムリアップだっただけに何かお上りさんの様な気分。
少し郊外に行けばすぐに地平線が見え、夜になれば満天の星空に行きあたるシェムリアップと違い、さすがのバンコク、公害都市というだけに車の量は多かった。
といっても東京でこのくらいの渋滞は日常茶飯事でしかない。といっても東京での映像はもう記憶でしかないのだが、東京との違いは地形にあるのだろう。
別にバンコクの地形に詳しいわけではないが、大気の汚染が著しい所はたいてい盆地で空気の入れ替わりの悪い所が多い。例えばメキシコシティ。一度はその空気の悪さを体験せねばなるまいか?(日本語すら下手になってきる。)



タイの看板





駅構内(BTS)の本屋さん、日本語の本だらけ。日本人が置いていった本を回収し中古として売っている店が多い。日本書籍の新品を置く店としては紀伊国屋書店が上げられる。伊勢丹@バンコク



タイのタクシーでは英語が通じなかった。5台引っ掛けてもダメだったので「ティー・タム・カン・プライサニー」と行って郵便局に連れて行ってもらう。ポストオフィスぐらいわかってくれよ、日本人でも5人に1人はわかってくれるっしょ！？

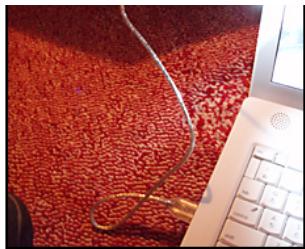


ポイべトで力つきた台湾で買ったスーツケース(寿命1ヶ月)。取手は二つあったが今では無惨にも外れています。キャリングする時に持つ所(伸縮する所)は途中が折れてしまいこれ以上伸びないし降りない。仕方ないのでタイで新しいスーツケースを買いました。壊れたらまたアップします。ちなみに扱い方が悪いわけじゃありません。4×5カメラセットが重過ぎるので。。。((泣))



タイで買った無線LAN、光ってますが何か？
繋がってるときに光るとかめんどくさいやつじゃありません。
私の意志で光らせることができる愛い奴





カテゴリ:

post by 羽立 孝 | 日時: 2006.05.03 | [パーマリンク](#) | [コメント \(242\)](#)

Copyright 2007 All rights reserved NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

powered by OLYMPUS